

地名と語る

～地名は人間がつけたものであるが、人が土地を離れては生活できない以上、
地名も自然的なもの、人間的なもの二種類がある（東皓伝）～

- (1) 熊崎
- (2) 砂原
- (3) 矢野東
- (4) 田中
- (5) 花上
- (6) 立田
- (7) 鯨
- (8) 北尾
- (9) 月ヶ丘
- (10) 観音
- (11) 田丸
- (12) 宮下

★矢野公民館だより 平成19年(2007年)4月・5月号～平成20年(2008年)
4月号の記事からの再掲

★(1)～(12)いずれも

文 発喜会 楠 精洲

(1)

絵

長船 布施夫

(1)熊崎

「くま」は隈(くま)、川の曲がって入りくんだ所。「さき」は先き。矢野川の下部で、曲り角のでばった地。左岸の砂原に対する位置にある。

洪水時には水の乱流が心配された地形だった。明治40年の「大流れ」では洪水の直撃を受けて多くの死者を出した。

熊崎通りから「恋の裏道」「ひげ納屋」節は消えた。砂原通りを避けて矢野小の通学路となっている。

矢野川に第1～第4熊崎橋が架(か)かる。



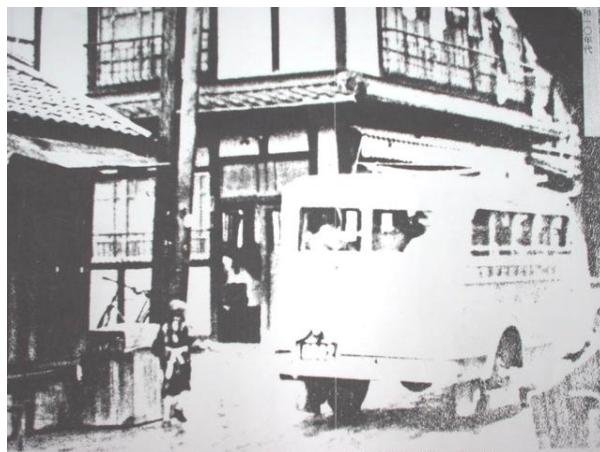
☞出合橋より第4熊崎橋を画く。

(長船布施夫氏提供)

(2)砂原

東川(矢野川)の河道沿いの砂州(すなす)による地名。

砂原通りは古くは黒瀬街道、昭和41年まではバスの通う県道であった。矢野の公益・公共施設のほとんどは、この通りに集中していたが、残るはただ矢野公民館だけとなった。かつての矢野の役場、郵便局、巡査派出所(交番)、農協などの所在地は忘れられてきた。



☞なつかしのボンネットバス

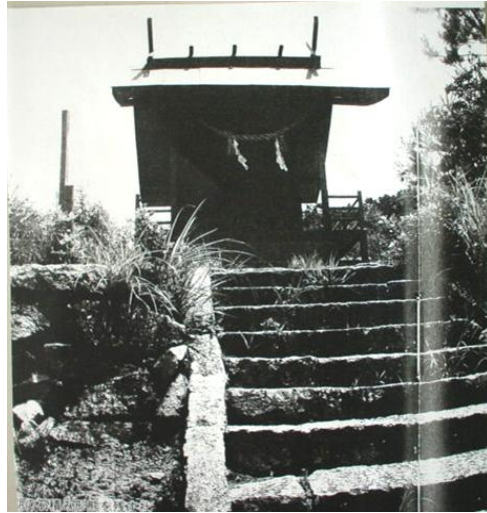
(昭和10年代 矢野町砂原通り野島醤油前より)

(3) 矢野東

東は日の出る方角。東迫を最近は矢野東町内会というようになった。

野間氏の矢野城の鬼門除（きもんよ）けの愛宕（あたご）社は、また権現（ごんげん）さんとも呼ばれる。

矢野八勝の1つ。古く桜の名所で知られる。愛宕橋を参詣口にして、1丁、5丁などの丁石が残る。



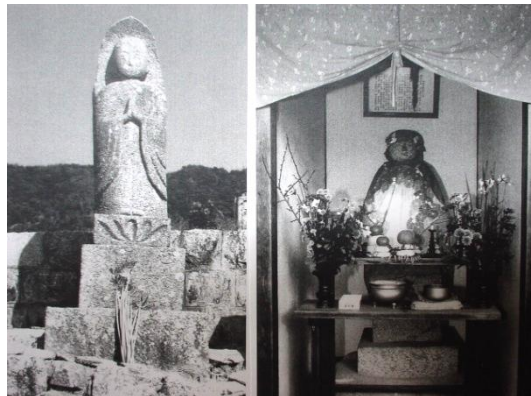
昭和46年、山火事で焼失後、
再建された愛宕権現。

(4) 田中

屋根や丘陵が西に突出した間に、田中・立田がある。容易に水田化された位置にあり、地名となった。

田中は、熊崎川を境に熊崎と隣りする。古くはコノシロの幼魚名にちなんで、つなし（川）といった。

熊崎田中の薬師さんと親しまれてきたお堂（一畑薬師）があった。



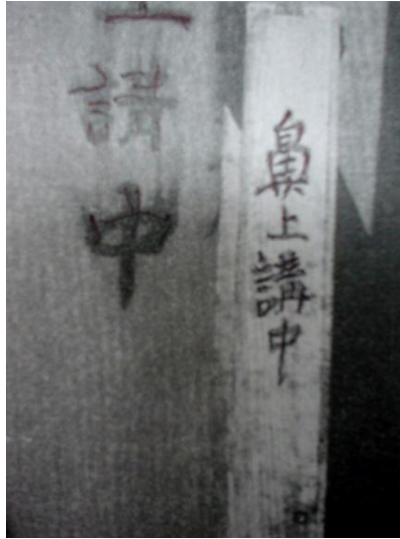
丘陵地（片平の丘）に立つ2体の地藏尊

(5) 花上

2つの丘陵（西尾山・山田山）のはな（鼻・端）の上（かみ＝うえ）に開けた集落が、はながみである。鼻上を美化して花上とした。

矢野の東北部の丘陵地（花上・北尾・西崎）は、古代文化発祥（はっしょう）の地帯である。今もわずかながら遺跡を残している。

花上薬師堂を上（かみ）下（しも）の講中（こうじゅう）が祭る。お薬師さんは、花上の精神統合のよりどころである。

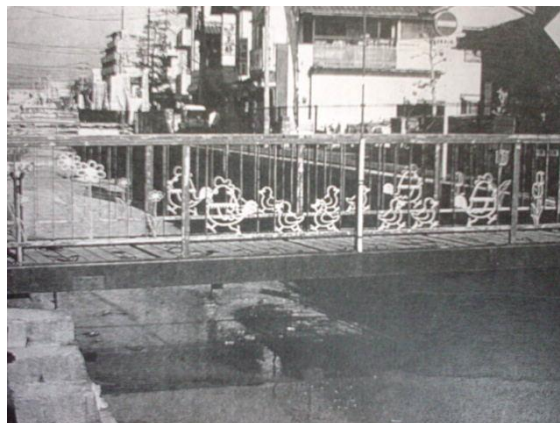


☞講中の汁器（じゅうき）の箱書（はこがき）

(6) 立田

立田（たてだ）は文字どおり「田を立てる」の意。新地（現在・真地）・田中・山田（花上町内会）・神田（宮下町内会）など、開発にかゝわる地名は多い。

矢野町は保育・幼児教育に熱心であった。広島市立矢野中央保育園のルーツは、香川スミさんの矢野町保育所。昭和31年、矢野町に移管され、字（あざ）立田1608番地の現在地に開設された。



☞保育園入口に架（か）かる
「ぴよぴよ橋」（保育橋）

(7) 鯨

矢野の東北部の丘陵地（花上・北尾）の下手（しもて）は、中世・野間氏時代の前は海岸線だった。「昔はくじらが入って来た」と伝えられる。スナメリ鯨（全長1.5メートル）の類（たぐい）であろう。

町なかの田んぼは、昭和40年代にすっかり姿を消した。しだいに一帯は市街化して、同48年鯨の丘陵地は「北尾」に分離（独立）した。



㊦昭和42年。中央の角地（かどち）は矢野町役場（現在・安芸区役所矢野出張所）の新地（さらち）

(8) 北尾

お（尾）は、山の裾（すそ）が伸びた所の意。北尾・西尾がそれである。なお西崎（さいざき）熊崎などの「さき」（崎）は、突き出た山の尖端の意である。

矢野の東北丘陵地（北尾・西尾・丸古・西崎）から、多くの文化財が発掘され、「矢野の曙（あけぼの）の地」にたとえられる。（矢野公民館1階ロビーに資料を展示）



㊦北尾横穴式古墳。月が丘町内会集会所・月が丘第一公園（矢野東3）の下手

(9) 月ヶ丘

団地名が町内会名になっている例は、幸崎団地（矢野東2-1）にもある。

月が丘は新宮社（廃社）にちなんで、新宮（しんぐう）団地と仮称していた。のち、月が上る丘をイメージして「月が丘」と呼び名された。

名にしおう西崎古墳群が散在した丘陵は姿を一変した。（矢野中学校玄関口に、舟型石棺（1基）が置かれている）



中央楠木辺り「新宮社跡」

④ 矢野東3-9（現在、CO-OP・生協ひろしま）より、新宮社跡と月が丘団地を遠望

(10) 観音

観音は、観音山—観音谷の親子関係にちなむ地名。開発が進むにつれて、人間の生活は、山林・原野から田畑（でんばた）・住宅地へと移っていった。

観音・西崎の新開地は、海田大新開に隣り合う一大水田地帯、矢野の穀倉地帯であった。田の割りは、そっくりそのまま街区となって残っている。



⑤ 昭和58年に再建された観音谷観音堂

(11) 田丸

昭和28年、田丸一眞町長を顕彰（けんしょう）して田丸町が誕生した。尾崎樋門（ひもん）筋（市道・尾崎線）に並ぶ、木造平屋建25戸の町内会。矢野川をはさんで、北に矢野東一丁目（田丸町）、南に矢野西一丁目（大浜）がある。国道31号・熊野別れ付近に広がる新興地に2棟の高層マンションが建った。



㊦昭和28年ごろの「町営田丸町住宅」。
河口にかき筏(いかだ)が並ぶ。遠方は
黄金山(広島市南区)

(12) 宮下

宮下（みやげ）は社寺（神社・寺院）のうちの社にちなむ地名。尾崎神社の「鎮守の森」の下に位置する。お宮の付近には、宮下・八幡（やわた）の町内会名のほかに、宮の畝（矢野西小）・宮脇（矢野町商工会）・宮崎（八幡町内会）・神田（かんだ・宮下町内会）の地名が伝わる。姫宮・祇園・稻荷・天神・観音・荒神・住吉など、矢野には多くの社寺にちなむ地名がある。



㊦宮下町内会のもう1つのお宮、山王社